４月１５日　　**テーマ：アドナイ・イルエ**

聖書箇所：創世記２２章１節～１４節

◆今日のみことば

“そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「主の山の上には備えがある」と言い伝えられている。”創世記２２章１４節

◆メッセージ

自分の一番大切なもの・・・。だれにも上げたくない。貸したくない。そういう心はありますか。もし、あなたの一番大切なものを、神さまは「わたしのために・・・、下さい。」と言ったらどうでしょうか。私たちは「はい。わかりました。」と言って、差し出すことができるでしょうか。

イサクさんが丈夫に育って、若々しく大きくなったころ、神さまは再び、アブラハムさんに言いました。「あなたの愛する息子、イサクをわたしにささげなさい。」と。アブラハムさんは、いつのまにか神さまから与えられた息子イサクさんを、自分のもののように思っていました。でも、神さまのみことばです。アブラハムさんは神さまの声に従って、「モリヤの山」（神さまが決めた山）へイサクさんを連れて行きました。イサクさんはお父さんに「たきぎは用意しましたが、いけにえの羊はどこにありますか。」と尋ねました。アブラハムさんは息子イサクさんに「神さまが備えて下さいますよ。」と答えました。

山について礼拝をささげるため、場所を用意してたきぎをのせ・・・。そして次にイサクさんをしばってそのたきぎに上にのせました。・・、アブラハムさんが刀でイサクさんを刺そうとしたとき、神さまは「アブラハム。その子に手を下してはいけません。」と言いました。山のやぶに角をひっかけて動けないでいる羊がいました。神さまがイサクさんの代わりにささげるいけにえを用意してくださっていました。アブラハムさんはその羊をイサクさんの代わりにして神さまに礼拝を捧げました。

神さまは、私たちの大切なものを取り上げるお方ではありません。世界のすべては神さまのものですから。神さまが求めておられるのは、神さまを一番にすること。神さまを一番にする歩みを、神さまが守ってくださいます。私たちも、自分の大切なものを進んでささげて、神さまを礼拝したいですね。

◆お祈り

「神さま。私も自分の大切なもの、大切な時間を進んで捧げて、あなたを礼拝できますように。」

（登別中央福音教会牧師　高橋敏夫）